



放射線室の紹介

診療放射線技師長 澤 弘通



皆様こんにちは、今回は放射線室の紹介をさせていただきます。
皆様すでにご承知のように、岩美病院は平成16年5月に新築移転し、はや2年を迎えようとしています。放射線室では新築移転にともない、CT装置をはじめとした放射線関連装置やMRI装置、骨量測定装置など多くの機器があらたに導入されました。私たち診療放射線技師3名は、新旧合わせたそれらの装置で日々業務を行っています。主な装置の種類・使用目的はつぎのようなものです。

装置の種類	数	主な使用目的・特徴	
一般撮影装置	2	2部屋での胸やお腹、骨などの一般的X線写真撮影を行います	
多目的透視装置	1	胃・腸などの消化管や血管など各種の造影検査を行います	
X線CT装置	1	高速撮影による脳出血や内臓疾患などの早期発見と診断を行います	
ポータブル装置	2	病室にいたままX線写真撮影を行います	
外科用イメージ	1	手術中のX線透視画像による手術経過の確認を行います（手術室専用）	
歯科用一般撮影装置	1	歯のX線写真撮影を行います	歯科と放射線室がパソコンでつながれ、フィルムのやり取りが不要です
パノラマ撮影装置	1	あご全体のX線写真撮影を行います	
乳房撮影装置	1	乳がん発見のためのX線写真撮影を行います （100分の5ミリの大きさのものまで撮影できます）	
MRI装置	1	のうこうそく 脳梗塞や胆石、 ついかんぼん 椎間板ヘルニアなど、体のどこでも検査できます	
超音波骨量測定装置	1	骨粗しょう症の診断を行います(毎年町のフレッシュフェスタへ参加)	
画像ネットワーク		画像をデジタル処理し配信・保存します	

これらの装置によって撮影された画像は全てデジタル処理し、安定した画像を各診療科へ提供すると同時に画像サーバーへ電子保管しています。このことは、将来電子カルテが導入された場合、パソコンがある所ならどこでもパソコン画面上に求める写真を映し出す事ができます。

ができ、現在のようにフィルムを必要としません。またデジタル画像はさまざまな加工処理ができますので、より幅広い診断を可能にします。さらに、院外とのネットワークを構築することで検査情報をやり取りしたり、いながらにして他病院の専門医の診断を仰ぐといった遠隔診断をも可能にします。患者様にとっては負担の軽減はもとより質の高い医療を受ける事ができます。

さて、最近テレビなどで「マンモグラフィ検診を受けましょう」というCMをよく目にします。これは「乳がん」を発見するための検診のことです。ピンクリボン運動ともいいます。日本における乳がん患者数は増加傾向にあり、23人に1人が乳がんにかかると言われており、その死亡率も年々高まっています。平成12年4月厚生省通達により、50歳以上の乳がん検診でマンモグラフィと視触診による検診2年に1回の導入が推奨されることになりました。今、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会を中心に国を挙げてのマンモグラフィ整備計画が進んでいます。当院でも以前から町の健康管理事業の一環として、このマンモグラフィ検診を住民ドックの中で行ってきましたが、新病院となつて女性診療放射線技師1名を増員し、住民ドックとは別にマンモグラフィ検診を行うようになりました。双方合わせたマンモグラフィ件数は平成16年度が約1500件、17年度が約740件でした（件数は放射線室での集計方法による。2件＝約1人）。先に述べたように当院の画像は全てデジタル化されていますが、マンモグラフィももちろんデジタルマンモグラフィであり、この取り組みは鳥取県東部では一番最初でした。検診の診断と撮影は、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会の認定を受けた当院の医